

資料 2

神戸 A 少年事件現場の地域生態学的観察

はじめに

1997年5月27日、3日前に失踪した土師淳くんの頭部が友が丘中学校の正門前におかれた。淳くんの口には、赤い文字で書かれた「酒鬼薔薇聖斗」という署名と、「さあ、ゲームの始まりです……」という書き出しの挑戦文が差し込まれていた。

これを契機に、マスコミは取材攻勢をしき、犯人探しへと加熱していった。また、6月2日、神戸新聞社に第2の挑戦状が届き、ますますマスコミはこの事件を追った。

こうしたなか、さまざまな犯人像が描かれていったが、6月28日、事件は14歳、中学3年生の男子生徒の犯行であったことが告げられた。

14歳の犯行ということで、世間は様々な問題を突きつけられた。学校問題、メディアの影響、少年犯罪、地域の問題、親の養育の問題、果ては少年法にまで飛び火した。また、神戸事件にかかわる言説は、過去の少年事件と比して、類を見ないほど出された。その中に、少年の住むニュータウンに焦点を当てたものがいくつか出された。

ニュータウンが問題であるという言説は、実際にニュータウンと呼ばれる新興住宅地に慣れ親しむ筆者にとって、あまり馴染むものではなかった。むしろ、それに対して異議を唱えたかった。しかし、現場を見ずして異議を唱えることはできずにいたため、もどかしい思いを抱いてきた。

事件から1年5ヶ月ほどたった1998年11月2日、現地を訪れる機会があった。そこで筆者（STEP II 研究所研究員・日本女子大学大学院 奥野純子）は、少年のかつて住んでいた街を歩き、彼の体験した音、におい、感覚、視覚を共有すべく、須磨ニュータウンを歩いた。そして、彼が犯行に及んだ事件現場を訪れることで、何かつかめるものがあるかもしれないという期待を胸に、さまざまな地を練り歩いた。

マスコミによって事件現場の様子を伝えられてきたが、自分の目で確かめ、感じてきたことが、マスコミによって伝えられてきたものとどのような点で異なり、ニュータウン問題論の言説がどの程度妥当であって、どの点が筆者との見解の相違なのかというこ

とについて記す。

I. 調査の枠組み

1. 目的

マスメディアや、識者といわれる人びとによって描かれた神戸の事件現場を、実際に歩くことによって、これらの言説の妥当性を検討する。また、少年の居住世界を歩くことによって、彼の感覚・視覚を共有し、少年の精神世界を探るための一助とする。実地踏査を中心に、筆者の見たもの、聞いたもの、感じたものを記述していく。

2. 方法・期日

(1) 方法：地下鉄西新線妙法寺駅－妙谷駅間、往復徒歩

(2) 期日：1998年11月2日（月曜日） 11:00～14:30

3. 観察地：北須磨団地、北須磨公園、コープこうべ、多井畑小学校、タンク山、
友が丘中学校、パティオ、竜が台小学校

II. ニュータウンと北須磨団地の成り立ち

1. ニュータウンの成立と階層間での葛藤

ニュータウンとは、戦後イギリスにおいて提唱された、E・ハウードの「田園都市」を下敷きにして構想された。「職住隣接の新造都市」が第1に目指されたが、わが国でニュータウンと呼ばれるきっかけとなった「千里ニュータウン」（大阪）や「多摩ニュータウン」（東京）には、このような性格はない。わが国のニュータウンは、丘陵を切り開いて造成した集合団地・建て売り住宅団地の集合体意味する。北須磨団地が属している須磨ニュータウンも、丘陵を崩して、その土砂で海浜を埋め立てるという神戸市の特異な都市計画（「山、海へ行く」）から生まれた。

ニュータウンは、分譲住宅、公団・公社の賃貸住宅、公営住宅という性格の違う住宅によって構成されている。

公営住宅は、自治体が低所得者向けに低家賃で提供しているものである。公団住宅は、公営住宅の入居基準を上回る所得階層向けのものである。公団の賃貸住宅が転勤の多い若年層を対象としているのに対して、分譲住宅には、定住者が住むことが多くなる。公的な住宅供給がこのような基準でなされているのが、日本にとって重大な問題とされ、「住宅階層問題」を引き起こす原因となる。

イギリスのニュータウンの理念では、「空間的には独立住宅を積極的にミックスし、社会的には異なった年齢層、異なった職業のさまざまな居住者層を組み合わせ、バランスのとれたコミュニティを創出する」ことがいわれてきた。しかし、多摩ニュータウンについては早くも74年に、東京都南多摩都市開発本部によって、次のような指摘がなされている。

「さまざまな階層の人たちが住むという意味では、都営、公社賃貸・分譲、公団賃貸・分譲など各建設主体別住宅が供給されることは歓迎すべきことである。だが、現実には、団地におけるこのような階層別住棟の建設は、都市の中では判然としない形で存在している階層差を、標本抽出する形で、建物の形態にも差をつけながら、純粋培養する結果になっている。……住棟別に階層をつけられた、しかも閉鎖的な団地社会の中で育まれる差別された児童の感覚を知るなら、このことは早急に改善されなければならない課題である……」（『多摩ニュータウン居住者の住生活と意識に関する調査報告書』）。

ここでは住宅階層問題を、異なる階層間の葛藤という観点でとらえているが、もう一方で、住宅階層が明瞭に存在する際に、同一階層内でもたらされる葛藤である。同一階層に属する住民は、他の階層との対立が落ち着けば、階層内部で競争を引き起こすことになる。階層の均質性が強まれば強まるほど、周りに差をつけることによってそれぞれの家庭はアイデンティティを持とうとする。それは、会社内での昇進であり、子どもの進学先へと飛び火する。（松原隆一郎、1997）

2. 北須磨団地というニュータウンの特質

須磨ニュータウンの友が丘地区の場合、住民のほとんどがサラリーマンで、とりわけ神戸製鋼や川崎重工といった大企業に勤務する人（労働組合関係者）の家庭が多い（写

真28)。中心をなす北須磨団地は、兵庫労働金庫（「労金」）が買収した土地にたてられた（高山文彦、1998）。

同一企業に勤める人々の間には、会社内での地位をめぐる競争があるから、そうした競争は陰伏的にであれ住宅地にも持ち込まれる。そして、会社内での昇進の度合いが目立たないほどのものであれば（もしくは競争の対象とならぬほど決定的なものとなれば）、また所得の差もつくことがなくなれば、次の差異の証しとなりがちなのが、子どもが通う学校になる。実際、この地域には「東大通り」、「灘高通り」と名がつくほど、友が丘地区の家庭が教育熱心であるということがいわれている。

また、このような一般的なニュータウンとしての性格に加えて、北須磨団地は60年代後半という高度成長期に労働運動の成果として作り上げられたという点が、特徴としていえる。

このような気風から北須磨団地は、「警察のない街」を謳うほど「住民自治」の意識が高く、学校施設と福祉施設を積極的に誘致している。団地内には幼稚園と保育園が二つずつ、小学校と中学校が一つずつ、県立高校も二つ在る。医療専門学校や介護福祉専門学校、神戸大学医療技術短期大学もある。また、障害者施設を誘致し、自治会として独自に知的障害者の施設と、特別養護老人ホームを建てている（松原隆一郎、1997）。

Ⅲ．観察結果 一言説の検討一

1．妙法寺駅付近

JR新長田駅より地下鉄西新線に乗り換え、2駅目、所要時間5分で妙法寺駅に着く。妙法寺駅の手前より、地下鉄は地上に出る。時間はちょうど11時を指している。気温は、11月にしては少し暖かく、長袖だと少し汗がにじんでくる。

駅を出ると北口にはバスターミナル、南口にスーパーとファミリーレストラン、マクドナルド、本屋があり、駅前には自転車置き場が並ぶ。買い物帰りの子ども連れの母親が、走り出す子どもに「気をつけなさい」と声を掛ける。買い物カゴを引き、静かに歩くお年寄りの姿もある。

付近に住居はなく、空き地が目立つ。少し離れたところに、高層マンションが見える。北須磨団地のある南口に出て、左手に向かう。車はほとんど通らず、あたりを静けさが

包み込む。

妙法寺駅から北須磨団地までは永遠と続く上り坂である。しばらくすると、左手に横尾団地が見えてくる。いたって普通の団地である。小さな子どもたちが、母親に連れられて遊んでいる。そこには3組の親子がいる。3人の母親は立ち話をし、子どもたちは公園内で砂遊びをしている。

しばらくすると、女子中学生の下校する一団に出会う。乱れた服装をする生徒は少なく、スカートの丈は膝が隠れるくらいで、少し奇妙にも感じる。ルーズソックスをはいている生徒も数えるほどしかおらず、髪の毛も後ろで束ねている生徒ばかりである。

しかし、何人かはPHSや、携帯電話をカバンからぶら下げ歩いている。テストの問題について話しをしている生徒がいる。この時間帯に下校しているところから、中間テスト中であることが予測される。しばらくして、坂を上りきったところにこの女子中学生の通う学校「啓明女学院」が見えてきた。小さな敷地で、新しい校舎である。

この学校を抜けると、大通りに出る。この通りには、ある程度車が走るが、渋滞することなく車はスムーズに走る。大きな駐車場があるレストランが3件、マクドナルドのドライブスルーが1件、ガソリンスタンド、カー用品店（オートボックス）がある。いずれの店の特徴も、大きな駐車場を要しているところである。

また、オートボックスの駐車場にはレンタルビデオ屋と古本屋がある。

しばらくすると、目的地が見えてきた。

2. 北須磨団地入り口～コープこうべ

大通りを少し北へ下ると、「北須磨団地入口」と書かれた信号機が見える。信号をわたると左手に看板が目に見え込んでくる。『労金 北須磨団地』、この看板はかなり大きく、ひとつの看板の長さは、実に2メートル近くある（写真28）。